

9条の会・こがねい講演会

イラクから見る日本

～暴力の連鎖の中で考える平和憲法～

「平和」な日本で、戦争を知らず、憲法など身近に感じたことなどなく育った私自身が、イラクで初めて日本の平和憲法の”ブランド力”の高さに感嘆する。その後、日本のイラク戦争への積極的参加はそのイメージを大きく変えた。国際ニュースが極めて少ない「情報鎖国」の日本では、知ることが難しい日本の姿。「平和の国ニッポン」は今なにを求められているのか。



高遠菜穂子氏

今こそ 9条 の力を

講演 高遠菜穂子
池末彰郎

日：時 5月23日（月）
13：30～
（開場 13：20）

会場 小金井宮地楽器小ホール
参加費 1000円
（学生 500円）

高遠菜穂子（たかとお・なほこ）イラク支援ボランティア。1970年、北海道生まれ。大学卒業後、会社員を経て地元で飲食店経営に携わる。2000年インドの「マザーテレサの家」、2001年からタイ、カンボジアのエイズホスピスでボランティア活動に専念。2003年5月からイラクでの活動開始。2004年4月にイラク・ファルージャで「自衛隊の撤退」を要求する現地武装勢力に拘束された。解放後、日本国内で「自己責任」バッシングを受ける。現在もイラク人道・医療支援活動を継続中。「イラク戦争の検証を求めるネットワーク」呼びかけ人。著書に『戦争と平和 それでもイラク人を嫌いになれない』（講談社）『破壊と希望のイラク』（金曜日）など、共編訳に『ハロー、僕はいきているよ。ーイラク最激戦地からのログインー』（大月書店）



改憲の動きと安保法の今後

池末彰郎（いけすえ・あきお）
弁護士 昭和62年登録
武蔵野法律事務所勤務
9条の会・こがねい代表

池末彰郎氏